

# 九州大学カーボンニアード・エネルギー国際研究所 第一回 ICNER Annual Symposiumを開催

研究振興局基礎研究振興課上  
磯研究推進室長、黒木登志  
WPI プログラム・ディレクタ  
及びアメリカ大使館ジエ  
リー・ミニフー工ネルギー主  
担当官から挨拶があり、東  
本大震災後、次世代エネ  
ギーの開発が求められる中  
ICNER の取り組みへの評価  
今後の活動に向けた期待の  
葉が述べられました。



（I<sup>2</sup>CNER）第一回 Annual Symposium  
が、稻盛財团記念館稻盛ホールにおいて開催され、国内外から約170名が参加しました。

ます冒頭に、有川総長、文部科学省  
研究振興局基礎研究振興課 上田光幸基

リード・マネージャーとして、担当官から挨拶があり、東日本大震災後、次世代工ネルギーの開発が求められる中、ICNERの取り組みへの評価と今後の活動に向けた期待の言



続いて、19名の「CNER」を含む国内外からの研究者による研究成果等の発表が行われた後、笠木伸英（WPI）プログラム・オフィサーから、事業の進捗を評価する「メント」がありました。

価する「メント」がありました。

か、「CNER」と米国を始めとした三ヵ国ツバ、アジアの研究機関との国際的な連携が実現していることに言及し、その重要性が強調されました。

NITROGEN USE EFFICIENCY

# Workshop 及び HYDROGENIUS & I<sup>2</sup>CNER Joint Research Symposium が水素材料先端科学研究センターと同日の内の分科会に分かれて開催され ました。

同で9つの分科会に分かれて開催されました。

基礎研究推進室長、黒木登志夫  
WPI・プログラム・ディレクター  
及びアメリカ大使館ジエフ  
リー・ミラー・エネルギー主席  
担当官から挨拶があり、東日

Pd-Catalyzed Cross-coupling  
and Zr-Catalyzed Asymmetric  
Carboalumination of Alkenes (ZACA  
reaction) | 木村謙二郎(株式会社新日本  
化学) 岩田一也(株式会社新日本  
化学)



場は立ち見が出るほどの盛況となりました。

有川節夫総長、巖佐庸高等研究院長の挨拶、香月勲九州大学特別主幹教授による根岸特別教授の紹介の後、壇上に立つた根岸特別教授は、科学者としてのご自身のこれまでのキヤリアやノーベル賞を受賞した「有機合成におけるパラジウム触媒クロスカップリング」等に代表されるご自身の研究について、1時間にわたり講演を行いました。

身の研究について、1時間にわたり講演を行いました。

### 講演終了後、本学学生との質疑応答

では「21世紀のサステナブルな社会のために、科学者の果たす役割は大きい。皆さんには大きなビジョンを持ち、海外

に目を向けて研究に取り組んでほしい」と学生や若手研究者へメッセージを送り、講演を締めくくりました。

なお、今回の講演会は世界トップレベル研究拠点(WPI)プログラムであ

るカーボンニュートラル・エネルギー  
国際研究所の共催により行われたた  
め、講演、質疑応答、主催者挨拶等す  
べて英語で行われました。